

月刊 きょうと教育通信

Vol. 20 平成16年8月号 発行:京都市教育委員会企画課 (TEL222-3768)

京都市教育委員会のHPは<http://www.edu.city.kyoto.jp/>でご覧いただけます。広報資料は毎日更新しています。

道徳教育振興市民会議が最終提言提出

「しなやかな道徳教育」を発信

道徳教育の充実を図るため、平成13年8月に発足した「道徳教育振興市民会議」（名誉座長：河合隼雄文化庁長官，座長：小寺正一京都教育大学理事・副学長）が、7月14日、門川大作教育長にメッセージ（最終提言）を提出されました。

市民会議は、道徳教育の具体的振興方策について、全15回の会議を重ねるとともに、学校視察や市民アンケート調査（22,327人から回答）、フォーラム、パブリックコメントなど、市民ぐるみでの様々な活動を展開してこられました。そしてこのたび、多くの方の御意見を踏まえ、メッセージをまとめられました。

メッセージでは、今、求められている道徳を「共に生きるための知恵」とし、目指すべき道徳教育を、やわらかいけれど芯はしっかりして決して折れない「しなやかな道徳教育」とされています。



小寺座長が門川教育長にメッセージを提出

さらに、「しなやかな道徳教育」を推進するため、「はっきり教える、伝える！」「しっかり見せる、示す」「じっくり語り合い、考える」「たっぷり体験させ、共に活動する」の4点を「どうトク（解く）？」アクションとして提案され、家庭・地域・学校で、そして市民みなで、共に生きるための知恵を寄せ合い、具体的な行動につなげていくことが必要であると呼びかけています。

教育委員会では、今後とも市民ぐるみで、このメッセージに基づき、心豊かな子どもを育む「しなやかな道徳教育」の充実を目指します。

◇ご意見・お問合せ＝学校指導課(TEL222-3808)

地産地消[知産知消]推進プロジェクト発足

7月5日、小学校給食に野菜等の地場産品の導入を検討するため、学識経験者・保護者・教職員・教育委員会等によって組織された「地産地消（知産知消）推進プロジェクト会議」（座長：土田謹一仏教大学講師，副座長：小谷久美子朱雀第一小学校長）が発足しました。

プロジェクトは、特色ある地域の産物を給食で使用するにより、食物の産地や生産の過程、郷土料理の歴史、食文化を学び、「食育」の充実を図ることを目的としています。



第1回会議でプロジェクトの趣旨を谷口賢司教育政策監が説明

第1回会議では、市教委から、大量供給に対応できる業者の供給能力や安定した品質確保、給食費への影響等、導入に伴う課題についての説明の後、各委員から、「学校毎でなく全市の子ども達が食べられる方策を考えたい」、「京野菜は値段が高く、需給がつかあわない」等様々な意見が出されました。

また、8月10日の第2回会議では、全市規模での導入を目指す実施案を基に、具体的な課題等について検討されました。

◇ご意見・お問合せ＝体育健康教育室(TEL213-5474)

《8月の主なできごと》

- 2日 LD(学習障害)等の子どもたちの教育支援を児童・保護者・教職員がともに学び、考える「夏休み 学びの広場」を開催(～4日)
- 3日 不登校生徒のための新・洛風中学校において、4日間の体験入学を開始。参加者が“創造工房”や“ヒューマンタイム”等の授業を体験。(1回目:3～6日, 2回目:17～20日)
- 5日 「中国少年友好交流訪日団」が醍醐西小学校を訪問。子どもたちが交流を深めました。
- 17日 学生が学校・園で教育活動を支援する「学生ボランティア」学校サポート事業に関する協定を京都大学と締結。
- 18日 第14回総合養護学校スポーツ交歓会を開催。養護学校児童生徒約180名が障害の違いを超え、卓球バレーで交流。
- 22日 少年合唱団第55回定期演奏会を開催。30年振りにオペレッタ(音楽劇)に挑戦！
- 今月中 学校歴史博物館において企画展『昭和30・40年代の子どもの暮らしと教育～あの頃は、お父さんお母さんもみんな子どもでした～』を開催。当時の教科書、教具、生活用品、学校給食、少年少女漫画雑誌等、昔懐かしい品々を展示。(7/17～10/12 毎週水曜休館)

第6回「地域教育フォーラム・イン京都」を開催

「教育の先進都市・京都」を4千人の参加者が実感！

8月10日、保護者・教職員をはじめ、全国各地から約4千人に及ぶ多数の方々の参加を得て、第6回「地域教育フォーラム・イン京都」を開催しました。

午前の全体会では、向島二の丸小学校金管バンドと向島中学校吹奏楽部による心温まる演奏で幕を開け、続いて行われた記念講演では、山廣康子広島県立安西高等学校長が、「ここが最後のとりで」と題し、“登下校時は、警察が巡回しないと危ない”とまで言われた学校を、保護者・地域の方の熱意を糧として、教職員の意識改革、生徒の努力があいまって“子どもを再生する学校”へと見事に復活させた軌跡を語られました。果敢に学校改革を推進される講師の熱い思いは、参加者全員に大きな感動を巻き起こしました。



オープニングセレモニーでは、子どもたちの演奏がフォーラムの開始を盛り上げました。



第1分科会では、鍵山秀三郎氏が講演。

午後には、読書・理科、みやこ子ども土曜塾、学校評価等、これまでで最多となる10項目のテーマに基づく分科会が、実践発表、講演、パネルディスカッションなど多彩な発表形態で行われました。

第1分科会では、榎本頼兼市長と共に、「これからの教育を語る懇談会」(文部科学大臣諮問会議)の委員に就任されている鍵山秀三郎氏(日本を美しくする会相談役)が講演。トイレ掃除等の美化活動を通して自分自身の心を磨こうと熱く語られました。

今年のフォーラムも、学校・家庭・地域が21世紀の京都の教育のあり方を心をつ一つにして考え、話しあう有意義な場となりました。

◇ご意見・お問合せ＝地域教育専門主事室(TEL254-5007)

音楽高校に「芸術顧問」を設置

世界的芸術家が指導・助言

音楽高等学校では、このたび、国内外で高い評価を得られ、高い見識と実績を持っておられる音楽家の方々6名に芸術顧問に就任いただくことになりました。

顧問の方々には、今後、学校運営や教育内容への助言や生徒への直接指導など、専門的な見地からご協力いただき、音楽高校の教育内容のより一層の充実・発展を図ります。



岸邊 百百雄氏
ヴァイオリニスト、
京都市立芸術大学名誉教授



北村 源三氏
トランペット奏者、
国立音楽大学理事、
日本トランペット
協会会長



佐渡 裕氏
指揮者、パリ・コン
セル・ラムル
一管弦楽団」首席
指揮者



葉加瀬 太郎氏
アーティスト



松田 康子氏
ピアニスト、ミュン
ヘン・リヒャルト
・シュトラウス音
楽院教授



ツトム・ヤマシタ氏
作曲家・打楽器奏者

◇ご意見・お問合せ＝学校指導課(TEL222-3811)

当時の都のようすを生き生きと再現

平安京復元模型を常設展示

(生涯学習総合センター(京都アスニー))

このたび、平成6年に平安建都1200年を記念し京都市美術館で開催された「甦る平安京」展で展示の核となった「平安京復元模型」の平安京域部分を、京都アスニー1階ロビーに常設展示することとなりました。

この模型は、平安京を1000分の1の縮尺で復元し、縦(南北)約5.4m、横(東西)約4.7mの大きさで、平安京が延暦13年(794)に遷都されてからの400年間をひとつの平面上にあらわしたものとなっており、当時の都の様子が生き生きと再現されています。

引き続き、9月上旬に、「豊楽殿復元模型」及び「豊楽殿鴟尾復元模型」の展示も開始する予定です。



◇ご意見・お問合せ＝京都アスニー(TEL802-3141)